第22回新潟哲学思想セミナー

Niigata Philosophy Seminar

ジョルダーノ・ブルーノを読む
ジョン・トーランド
汎神論の発明

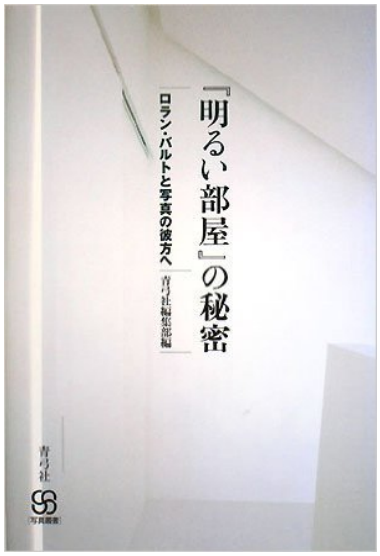
講師　岡本源太
（岡山大学文学部准教授）

THURSDAY	2016 / 9 / 8 / 18:30〜20:00
新潟大学五十嵐キャンパス 総合教育研究棟B棟5階プレゼンルーム	

NiiPhiS

主催：新潟哲学思想セミナー［NiiPhiS］（世話人＝宮﨑裕助·古田徹也）
共催：新潟大学人文学部哲学·人間学研究会
お問い合わせ：宮﨑裕助（E-mail: yusuke@human.niigata-u.ac.jp）

講演会概要

近代の黎明とされるルネサンスは、こと哲学史においてはその影響力が見えにくく、以後の近代哲学にどのように引き継がれたのか、いまだ十分に解明されていません。本発表では、ルネサンス哲学の隠れた後裔の一例として、アイルランドの自由思想家ジョン・トーランド（John Toland, 1670-1722）の哲学を取り上げます。ロックとバークリのあいだにあって、ライプニッツやベールやクラークとの論争を通して、みずからの哲学を「汎神論」として鍛え上げていったトーランドは、1698年にルネサンスの哲学者ジョルダーノ・ブルーノ（Giordano Bruno, 1548-1600）の一連の著作を入手して以来、つねにそれを座右に置き、多数の書き込みと、部分的ながら英語訳を残しています。トーランドはブルーノからなにを受け取ったのか——ルネサンス自然主義から近世自由思想への継承の内実を探ります。

【岡本源太氏プロフィール】
1981年生まれ。岡山大学文学部准教授。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。博士（人間・環境学）。専門は、ルネサンス期西洋および現代の哲学思想と芸術理論。著書に『ジョルダーノ・ブルーノの哲学——生の多様性へ』（月曜社、2012年）、『『明るい部屋』の秘密——ロラン・バルトと写真の彼方へ』（共著、青弓社、2008年）、訳書に、ジョルジョ・アガンベン『事物のしるし——方法について』（共訳、筑摩書房、2011年）他。